



## Race Report

10-11 September 2011 / SUPER GT SERIES Round\_6 FUJI

### triple a vantage GT2、序盤から鬼神の追い上げ 貴重なポイント獲得となる9位フィニッシュ

【Result】

09.10 Free Practice : 15 th (1'45"520)

09.10 Qualify 1 : 17 th (1'45"392)

Starting Grid : 17 th

09.11 Free Practice : No Time

Final : 9 th (2 pt)

Series Ranking (Driver/Team) : 10 th/10 th



【公式練習・予選】 2011.09.10 (Sta)

### triple a vantage GT2、富士でまさかの予選17番手

■公式練習 【天候】 晴 【コース】 ドライ 【気温・路温】 開始時: 26℃・32℃ 終了時: 29℃・42℃

■公式予選 【天候】 晴 【コース】 ドライ 【気温・路温】 開始時: 34℃・43℃ 終了時: 30℃・40℃

全8戦で行われる2011年のシリーズもいよいよ第6戦の「FUJI GT 250km RACE」を迎えた2011 SUPER GT SERIES。シリーズも終盤戦へと突入するこのレースはタイトル争いを見据えるチームにとってはまさに正念場。しかし各陣営のマシン熟成もピークに達する中行われる今季2度目の富士戦はこれまで以上に熾烈な戦いになる事が予想された。triple a vantage GT2 & Team A SPEEDもそんな緊張感の中、第2戦のウィナーとしての意地を見せる為に絶対的に落とせない1戦に挑む事となった。そして迎えた初日土曜日の公式セッション。



前戦鈴鹿では土曜日公式予選からのタイヤ選択でリズムを崩してしまったtriple a vantage GT2。それでも決勝レースでは粘り強くポジションを上げていった事からも、不確定要素に足元をすくわれなければ十分にトップ争いが出来るポテンシャルがある事を改めて実感させた。今回の富士は天候も安定、初日からますますの天候に恵まれ、土曜の午前9時15分から1時間45分に渡って行われた公式練習は終始ドライコンディションでのセッションとなった。ここでまずマシンに乗り込んだのは吉本大樹。その吉本はまずマシン各部のチェックを済ませると、午後に行われる予選に向けてマシンのセットアップを開始。「走り出しのバランスが悪くなって少し苦労した」とはいうものの、途中星野選手とのドライバーチェンジも行いながらセットを煮詰めていき、最終の順位としては15位という結果ながら、「セットアップを重ねて良い方向に進んだと思う(吉本大樹)」と、予選に向けて期待の持てる内容でこのセッションを終える事となった。

そして午後に入り始まった公式予選。午後1時から始まったこのセッションでは、ふたりのドライバーの基準タイムクリアはもちろん、トップ10に与えられるスーパーラップ(SL)進出権争いが焦点となる。このセッションでもまず最初にtriple a vantage GT2のステアリングを握ったのは吉本大樹。その吉本はまず4周の計測を行い、1'45"404をマークして一旦ピットイン。星野選手へとドライバーチェンジを行う。するとその星野選手はわずか3周の計測で1'45"837をマーク。危なげなく基準タイムをクリアしていく。そしてその後再度吉本にドライバーチェンジ。SL進出を賭けたアタックを吉本に託していく。

するとその吉本は計測4周目、第1セクターを自己ベストで通過し、続く第2セクターこそ自己ベストには届かなかったものの、最終的にセッション自己ベストとなる1'45"392をマーク。しかし「正直予選は自分も期待してはたけど、(予選での)状況と今回持ち込んだタイヤのコンディションが全く合わずタイムが出なかった…」というコメント通り、このタイムはSL進出にはとどかない17番手。その後最後の望みを賭けて試みた連続アタックでは、第1セクターこそ前周を上回るセクターベストをマークしたものの、最後の第3セクターはタイムアップできず。結局これでtriple a vantage GT2の予選順位が確定、好走が期待された富士でまさかの決勝17番手スタートに沈む事となった。

11' SUPER GT SERIES Round\_6 / FUJI  
2011.09.10 (Sta) Free Practice & Qualify  
Text : [www.hiroki-yoshimoto.com](http://www.hiroki-yoshimoto.com)

PERSONAL SPONSORS

TWS

Corniche

S&amp;I

VAPSn XPEL  
Car Protection Specialist

osaka hall

TAKAI  
CORPORATION INC.

esprit Car Beauty Factory

金剛防災

PARTNERS

PL0T2

Arai

SIDEWINDERS

HY SPEED

HY Management Co., Ltd.  
info@hy-management.com  
www.hiroki-yoshimoto.com



## Race Report

10-11 September 2011 / SUPER GT SERIES Round\_6 FUJI

【決勝】 2011.09.11 (Sun)

### triple a vantage GT2、怒涛の追い上げ 9位フィニッシュで貴重なポイント獲得

■フリー 【天候】 雨 【コース】 ウェット 【気温・路温】 開始時: 23℃・25℃ 終了時: 22℃・26℃  
■決勝 【天候】 曇 【コース】 ドライ 【気温・路温】 29℃・39℃

決勝レースを前に朝8時20分から30分間行なわれたフリー走行ではコースに出る事すら出来なかったtriple a vantage GT2。さすがにこの事態には前戦から続く不調の波が鎮まる事無く押し寄せてきたような雰囲気も漂い、ピットには不穏な空気と焦りからくる緊張感が見え始めていた。しかしその空気が変わったのは、状況によっては出走を見送る事すらある「GTサファリ」の時間帯での走行であった。

この時間帯、ウェットコンディションで決勝用のマシンセット確認を行ったのは星野選手。「GTサファリ」はファンが走行するマシンを間近に見られる事を目的に設けられた、言わばファンサービスの一環でもあるセッション。この時間帯は観客を乗せたバスがコース上を一緒に走っている為、通常のセッションのようにコース全域でアタックが可能となるわけではない。しかしこのセッションで確認したマシンセットをベースに決勝を戦う事を決めたtriple a vantage GT2。そしてその後、ドライコンディションで行われた決勝レース終了後、「ウェット路面で確認したセットアップが今回持ち込んだヨコハマタイヤさんのゴムとマッチして土曜日の不調を忘れさせてくれた」というコメントを残す事になる。

空はやや薄曇りながらコースコンディション自体はドライとなった午後2時。55周で争われる決勝は、気温29℃、路面温度39℃というコンディションでスタートが切られる事となった。今回レースのスタートを担当したのは星野選手。すると星野選手はスタート直後から怒涛の追い上げを見せる。何と17番手からのスタートにも関わらずオープニングラップで12番手、2周目には11番手にまでポジションをあげ、さらにそのペースを落とすことなく周回を重ね16周目には何とトップ10圏内の9番手にまでポジションを押し上げていく。さらにピットイン前には他のマシンが先にピットに向かった関係もあるとはいえ、タイミングモニター上では6番手に。土曜日までの不調を完全に払しょくする走りを見せ、GT300のレースの半分強となる27周目にピットイン。吉本大樹にステアリングを託していく。

このドライバーチェンジにあたっては「少しでもポジションを上げるためタイヤ無交換作戦も考えた」というtriple a vantage GT2陣営。しかし、序盤からの追い上げで摩耗したタイヤ、残りの周回数とライバル勢のペースを冷静に判断、結果「左側の2本のみの交換」という戦略を選択し、その分のタイムロスを取り戻す作業はコース上での吉本の走りに託された。するとコースに戻った吉本はこの戦略に見事に応えて見せる。復帰直後の見た目上のポジションは15番手であったが、そこからの数周で33号車をパスするとこの時点で10番手にポジションアップを果たしていた。その後「実はエンジンのトルクが落ちてきているようなフィーリングもあってストレートは苦しかった」という状態に加え、右側のタイヤ2本はスタートから無交換、さらにガソリンを給油した分のウェイトが押し掛かる状況ながらそのペースは衰えを見せず、レースも終盤に差し掛かろうかという時点でも500クラスとの絡みのないラップでは予選と遜色のないラップタイムすらマークするハイペースを維持。ピットアウトの時点では遙か前方に離れていた9番手走行のマシンにどんどん迫っていく。そして遂にレースもラスト2ラップとなったところでこのマシンを捉え一気に9番手に浮上。その後は8番手のマシンのすぐ背後まで迫るもオーバーテイクには至らずチェッカーフラッグを潜り抜ける事になったものの、ファイナルラップの最終コーナー立ち上がりまで見せた怒涛の追い上げは次戦での好走を期待させるに十分なインパクトを残し、今シーズン第6戦を終える事となった。

11' SUPER GT SERIES Round 6 / FUJI  
2011.09.11 (Sun) Final  
Text: [www.hiroki-yoshimoto.com](http://www.hiroki-yoshimoto.com)【Aspeed Official Site】 <http://www.aspeed.co.jp/>  
【SUPER GT SERIES Official Site】 <http://www.supergt.net/jp/>  
【吉本大樹 Official Site】 <http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

【吉本大樹コメント】



ここは富士なのに何故?! という二日間でした。勝つくらいの気持ちで富士へ乗り込んだのにセットアップと全体のバランスをなかなか取る事ができなくて、全くペースを上げる事ができませんでした。

予選ではハード側からソフト側に変えたにも関わらずタイムを上げることができませんでした。噛み合っていないとそうなるかもしれませんが、今回はまさにそんな感じの二日間でした。決勝前まではフラストレーション溜まりっぱなしの展開ではありましたが、決勝ではチャレンジしてみたセットも良い方向へ進み、星野選手の攻めた走りやヨコハマタイヤさんの確実な判断のおかげでそれまでを忘れてしまうくらいのペースでレースを走る事ができ、ポイントにも手が届きました。当たり前前のことではありますが、ほんの小さな事でどうにでも転がってしまう。それをとにかく間違った方向に転がらない様に、チャンピオンシップ残り2戦をしっかりと戦いたいと思います。

### PERSONAL SPONSORS

### PARTNERS